

令和4年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人佐世保地域文化事業財団	
施 設 名	アルカス SASEBO	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	15,622	(千円)
	公 演 事 業	7,290 (千円)
	人 材 養 成 事 業	6,022 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	2,310 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	アルカス寄席	令和4年5月1日	出演：三遊亭らっ好、三遊亭好楽、 三遊亭兼矢、鏡味仙志郎	目標値	250
		イベントホール		実績値	275
2	若者向け地域活性化事業 THUMBS UP FESTIVAL in アルカス SASEBO	令和4年5月22日	出演：PUSHIM (レゲエ・シンガー)、 THE FLOORRIORZ (ブレイクダンス)、 FNCY (ヒップホップ)、韻シ スト BAND (ヒップホップ)、博多4 K (ヒップホップ)	目標値	1,000
		大ホール		実績値	215
3	北村朋幹 ピアノ・リサイタル	令和4年6月11日	出演：北村朋幹 (ピアノ)	目標値	300
		中ホール		実績値	159
4	レジデンス弦楽四重奏団 アルカス・クアルテット 第10回定期演奏会	令和4年8月6日	出演：川崎洋介 (第一ヴァイオリン) 西野ゆか (第二ヴァイオリン) 柳瀬省太 (ヴィオラ) 辻本玲 (チェロ)	目標値	250
		中ホール		実績値	131
5	アルカス九十九島音楽祭 2022	令和4年8月20日～ 21日	出演：一般参加者 44組	目標値	15,000
		アルカス SASEBO 全館		実績値	8,230
6	広島交響楽団 佐世保公演 ～音楽が紡ぐ、平和への祈り～	令和4年9月24日	出演：下野竜也 (指揮)、清水和音 (ピ アノ)、広島交響楽団 (管弦楽)	目標値	1,000
		大ホール		実績値	496
7	坂東玉三郎 お話と素踊り	令和4年11月6日	出演：坂東玉三郎 (お話、素踊り)、 富山清琴 (歌・三絃)、富山清仁 (歌・ 三絃・箏)、聞き手 (高月晶子)	目標値	1,100
		大ホール		実績値	833
8	侍 BRASS 佐世保公演	令和4年12月3日	出演：中川英二郎、野々下興一 (トロ ンボーン)、エリック・ミヤシロ、本 間千也、澤田真人、オッタビアーノ・ クリストーフォリ (トランペット)、 森博文 (ホルン)、齋藤充 (ユーフォニ アム)、次田心平 (チューバ)、岩瀬立 飛 (パーカッション)	目標値	700
		大ホール		実績値	394

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	アルカス SASEBO ジュニア オーケストラ	通年	【指導者】 指揮：清水醒輝、松元宏康 講師：長崎 OMURA 室内合奏団をはじめとする県内外の演奏家 24 人 ミュージックアドバイザー：豊嶋泰嗣	目標値	入場者数 1,200 名 参加者数 90 名
		アルカス SASEBO ほか		実績値	入場者数 10 周年演奏会 625 名、第 11 回定期 755 名 参加者数 85 名
2	アルカス SASEBO 音楽アウトリーチ事業「演奏家がやってくる！」第 3 期生の募集・研修	通年	【講師】 楠瀬寿賀子（コーディネーター）、大嶋康司（YASSY／ブラック・ボトム・ブラス・バンド トロンボーン奏者） 【研修生】 迎ゆかり（ピアノ／クラシック）、林田美緒（活動名：みお／ピアノ／ジャズ）	目標値	2 組
		アルカス SASEBO、佐世保市立白南風小学校音楽室		実績値	2 組

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	アルカス SASEBO ホール探検ツアー2022	令和4年8月4日、5日	内容：舞台機構見学、ピンスポットライト操作体験、オーケストラピット体験、迫や反響板の説明・見学、ミラーボールシュート体験、ロールバックチェア展開見学、客席迫体験 茶室の見学ほか	目標値	100名
		大ホール、イベントホール、茶室		実績値	85名
2	アルゲリッチ音楽祭提携公演 ランチタイムコンサート Vol.27 三浦一馬バンドネオンコンサート	令和4年5月19日	出演：三浦一馬(バンドネオン)、高橋優介(ピアノ)	目標値	350名
		中ホール		実績値	463名
3	ランチタイムコンサート Vol.28 小國雅香ジャズライブ	令和4年7月22日	出演：小國雅香(ピアノ)、小笠原由美(フルート、サクソ)	目標値	350名
		中ホール		実績値	316名
4	ランチタイムコンサート Vol.29 泉真由×松田弦～フルートとクラシックギターの響きに包まれて～	令和4年9月7日	出演：泉真由(フルート)、松田弦(クラシックギター)	目標値	350名
		中ホール		実績値	242名
5	ドレミであそぼう!3才からのクラシック～テルミンとマトリョミン～	令和4年5月14日	出演：竹内正実(マトリョミン、音楽監督)、佐村田紗千(テルミン)、鈴木雄也(テルミン)、アエロ・エレクトロ・マトリョーシカ(マトリョミンアンサンブル)、松井正樹(ピアノ)	目標値	300名
		イベントホール		実績値	60名
6	ドレミであそぼう!～0才からのクラシック～親子で楽しむハロウィンコンサート～	令和4年10月30日	出演：アートムジカ(ピアノ：田中美江、ソプラノ：小野弥生、画家：保坂真紀)、永田 明(フルート)、関家真一郎(打楽器)、ささきりょう(パフォーマー)、久米詔子(編曲、作曲)、永野紗佑里(チェロ)	目標値	150名
		イベントホール		実績値	196名
7	アルカス SASEBO ロビーコンサート	①令和4年7月29日、 ②11月27日、 ③令和5年2月11日 【アウトリーチ】 令和4年11月13日	出演： ①長崎芸術文化団体 NOM 円能寺美恵(ピアノ)、有村純親&「Eオケ」愉快的仲間たち(サクソフォンアンサンブル) ②ピエトラ・ピアッタ(混声合唱) ③西川真衣(ピアノ)、AkWM(中窪亜希子/トロンボーン・上杉未稀/ピアノ)	目標値	800名

		①～③エントランスロビー 【アウトリーチ】 世知原地区コミュニティセンター講堂	【アウトリーチ】 松尾朱音（二胡）・井坂圭一（ピアノ）、 プリコット（種口敬明/リコーダー・池田 祐希/ファゴット・内田誠/ピアノ）	実績値	410 名
8	アルカス SASEBO 音楽アウトリーチ事業「演奏家がやってくる！」	令和4年7月26日～ 令和4年12月7日	派遣演奏家： 西川千穂（オーボエ）・増井ゆかり（ピアノ）、 上野裕介（クラシックギター）、ツインズ（大橋理渚/クラリネット・梶原捺央/クラリネット・ピアノ）	目標値	800 名
		市内小学校音楽室		実績値	528 名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
<p>【社会的役割（ミッション）】</p> <p>令和3年度からアルカス SASEBO の他、佐世保市博物館島瀬美術センターと佐世保市民文化ホールを新たに加え、三館を管理運営している。3館連携による、より効果的かつ効率的な運営を行い、文化事業の実施を通じて人々に感動と希望をもたらし、年齢、性別、社会的状況に関わらず、だれもが多様な文化を楽しめ、心豊かな生活を営む環境づくりに寄与するとともに、街中の賑わいや交流促進、地域の文化芸術の活性化に寄与することを使命としている。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が不透明で見通しが困難な状況ではあったが、このような時だからこそ、文化芸術を多くの人々に届け、人々に感動や安らぎを与える事ができるよう、県北地域の文化芸術活動の拠点として、多様な文化事業を積極的に展開した。</p> <p>【事業の実施について】</p> <p>誰もが多様な文化を楽しめ、市民の誇りとなる独自の文化が息づくような事業展開を基本として、地域住民が様々な文化芸術に触れる機会を提供する「鑑賞事業」と、普及、育成、交流、創造の4つの目的に応じて地域住民の文化活動を支援する「市民参加型事業」を実施。令和3年度までは、感染症対策のため財団の自主事業については収容率50%で実施していたが、令和4年度からはガイドラインに基づき、大声での歓声や声援等が想定された公演事業②「若者向け地域活性化事業 THUMBS UP FESTIVAL」と、マスク着用が困難である0才から入場可能な普及啓発事業⑥「ドレミであそぼう！0才からのクラシック」以外は、収容率100%で実施。消毒や検温、公演当日、不安を感じられたお客さまの座席変更希望に応えるための退避席を設けるなど感染症対策を講じ、より安心安全な環境でお客さまを迎えることが出来るよう計画して取り組み、全事業計画通り実施することができた。</p>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
<p>コロナ禍で文化芸術に触れる機会や鑑賞の機会が減少した子どもたちに文化芸術に触れる機会を提供するため、普及啓発事業としてホールデビューを応援する子ども向け公演や小学校の音楽室へ演奏家を派遣する事業、幼少期から会館に親しみをもってもらうことを目的とした「アルカス SASEBO ホール探検ツアー」など、今年度も継続して0才～10代をメイン対象とした事業に積極的に取り組んだ。人材養成事業①「ジュニアオーケストラ」は、今年度創立10周年を迎え、卒団生の中には音楽大学に進学する者や公立文化施設職員を目指しアートマネージメントを専攻する者、一般大学へ進学後もオーケストラ部へ所属し演奏を続ける者など、アルカス SASEBO ジュニアオーケストラでの経験を活かし、様々なかたちで全国各地で活躍している。また、普及啓発事業⑧「アルカス SASEBO 音楽アウトリーチ事業 演奏家がやってくる！」は、毎年募集枠より大幅に上回る申込があり、学校の恒例事業として教育関係者からも高い評価を受ける人気の高い事業となっている。</p> <p>助成をいただくことにより、地方都市では鑑賞する機会が少ない、国内外で活躍する一流演奏家による演奏やプロオーケストラ公演など優れた文化芸術に触れる機会を提供すると共に、特に人材養成事業①「ジュニアオーケストラ」や普及啓発事業⑧「アルカス SASEBO 音楽アウトリーチ事業 演奏家がやってくる！」などの将来を担う子どもたちの健全な人材育成のための事業を継続的に取り組めており、子どもたちが様々な体験や交流を通じて得たもの、同じ目的や趣味、関心によって結びついた活動が更に発展し、子どもたちを育む場となり、そのような活動から得たことを将来地域社会に還元し、地域社会の活動をより豊かなものにしてくれると期待するとともに、当財団の人材育成事業の柱として、継続的に様々な支援をいただきながら取り組んでいきたいと考える。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

目標の達成度については、以下の通りである。

【公演事業】

指標①：満足度の維持・増加	目標 98.5%	実績 94.9%	達成率 96.3%
指標②：60代未満の観客層の増加	目標 61%	実績 41.8%	達成率 68.5%
指標③：継続事業への関心度の増加	目標 61%	実績 61.8%	達成率 101%

指標①については、大変満足・満足が94.9%と、アンケートからも公演内容については、一定の満足度を得ることができていると考える。指標②については、教育現場の感染症対策の緩和や佐世保観光名誉大使を起用したブレイクダンスやレゲエなど若年層を対象とした企画(事業番号②)や新進気鋭演奏家の起用(事業番号③)、学生を対象とした公演(事業番号⑧)などに積極的に取り組み、昨年度より8.1%増加。指標③の事業番号④については、海外在住者がいるため令和元年以降、中止やメンバー揃っての公演が実施できずにいたが、クアルテットでの第10回目の記念すべき演奏会を実施。目標を達成することができたのは、平成23年から継続して取り組んできた一定の成果の現れだと思える。

【人材養成事業】

指標①：ジュニアオーケストラ団員数	目標 90名	実績 85名	達成率 94.4%
指標②：認知度と来場者の増加	目標 82%	実績 74.3%	達成率 90.6%
指標③：演奏会の入場目標	目標 1,200名	実績 8月公演 625名、3月公演 755名／平均 690名	達成率 57.5%
指標④：第3期生演奏家申込数	目標 3組	実績 2組	達成率 66.7%

事業番号①については「ヴァイオリン体験教室」など新たな企画や卒団生も参加した「10周年記念演奏会」、地域の吹奏楽部と交流したアウトリーチなど様々な活動を実施。令和2、3年度の感染症の影響を受け、積極的に対外的な活動が行えなかった影響が指標②、③に現れていると考える。事業番号②については、SNS等も駆使し募集を行いジャンルの異なる演奏家に登録してもらうことができ、個性あふれる魅力あるプログラムを創ることができた。

【普及啓発事業】

指標①：満足度の維持・増加	目標 98.5%	実績 94.9%	達成率 96.3%
指標②：60代未満の観客層の増加	目標 61%	実績 41.8%	達成率 68.5%
指標③：音楽アウトリーチ事業実施校 20クラス	目標 20クラス	実績 20クラス	達成率 100%

未就学児や小学生を対象に、ホールデビューやホールの興味関心を深めることを目的とした企画(事業番号①、⑤、⑥)、また地方では触れる機会の少ない楽器を起用した企画(事業番号②、⑤)、ハロウィンをテーマとした企画(事業番号⑥)など、多様な世代を対象にバラエティーに富んだ内容で実施。その成果が、指標①、②に現れていると考える。事業番号⑧では、目標の3.5倍の申込があり継続事業として確実に定着し、教育機関からも高い評価を得られていることが数値からも見て取れる。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業計画段階で新型コロナウイルス感染症の見通しが見つからない状況だったため、令和4年度事業については、海外からの招聘事業については実施しない方針で年間事業の組み立てを行った。そのため、新型コロナウイルス感染症に関する入国制限や行動制限などに左右されることなく計画通り実施することができた。抗原検査キットを活用すると共に、新型コロナウイルス感染症の影響による延期や中止、変更対応のノウハウも活かしながら、公演に応じた対策を講じながら全事業実施し、中止や延期が繰り返され舞台芸術に触れる機会が減少していた市民の期待に添うことができたと考える。

なお、以下の公演については、一部変更等が生じた。

公演事業⑧ 出演者搭乗予定の機体トラブルに伴い、一部の出演者が開演時間に間に合わない状況が生じた。出演者が揃うまでトークやミニコンサートを行い、開演時間に変更が生じたが予定通り実施することができた。

人材養成事業② 台風の接近に伴い市内全小・中学校が休校になったため、小学校でのアウトリーチ見学を中止。また、講師の新型コロナウイルス罹患のため、一部の研修内容をオンラインに切り替えて実施。またオンラインで行えない研修を補うため、10月に研修を追加し、内容の充実を図った。

普及啓発事業④ 台風による休校のためアウトリーチが中止。演奏家にも当初のスケジュールから前倒しで来ていただいたことで、公演は予定どおり実施できた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

<公演事業>

事業費の決算額と要望額の比率（決算額/要望額）が70%を下回った公演が、1公演あった（事業番号⑤）
要因としては、当初、楽器体験等のワークショップを会議室で開催することを計画していたが、感染症対策として、600名を超える出演団体の接触を極力避け、より安全、安心に、出演団体が参加出来る環境を整えるため、会議室を出演団体の更衣室として使用する必要が生じたため、ワークショップは中止とした。そのため、ワークショップ募集に関わる宣伝費等の支出減少に伴い、決算額が下回った。

<人材養成事業>

事業番号①については、当初の計画通り、様々な活動を行うことができたため、事業費についても要望比96.42%と計画通り進めることができた。また、事業番号②については、多少の計画変更は生じたものの、要望比79.59%とほぼ計画通り実施できたと考える。

<普及啓発事業>

事業費の決算額と要望額の比率（決算額/要望額）が70%を下回った公演が、2公演あった（事業番号①、⑦）
事業番号①については、3年ぶりの開催ということで、定員を大幅に上回る申込が得られたため、宣伝費として予算計上していた経費を使用せず実施出来たことが要因と考えられる。事業番号⑦については、遠隔地でのアウトリーチの際利用した貸切ジャンボタクシーの経費が計上できなかったことや、公募且つ居住地により支払い金額が異なる出演料の経費が当初予算より抑えられたことが要因と考える。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

財団のミッションに沿って、これまで培ってきたネットワークや企画力を活かし、様々な関係機関とも連携し、幅広い年齢層を対象に、公演事業、人材養成事業、普及啓発事業に取り組んだ。

創造性について特筆すべき主な事業は以下の通りである。

【公演事業④】

室内楽専用ホール「中ホール」の特性を活かし、室内楽の普及を目的に平成23年より開始した、オリジナルの弦楽四重奏団「アルカス・クアルテット」。1週間、佐世保に滞在し、中ホールでの音楽創りと共に、ジュニアオーケストラへの指導や地域でのアウトリーチを行っている。国内外で活躍中の演奏家による質の高い演奏を、地方都市で鑑賞出来る高いオリジナル性を有した優れた事業であるとする。

【公演事業⑥】

被爆県であるホールならではの取り組みとして、「平和」をテーマにプログラムを組み、長崎と広島が音楽で繋がるメッセージ性、地域性を有した内容で広島交響楽団を招聘。また、関連企画として、広島や長崎の団体が行っている平和活動を紹介するパネル展も行い、様々な平和の形や取り組みを紹介。平和について文化芸術を通し、理解や想いを深める機会を提供した。被爆県ならではの企画として、地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であったとする。

【人材養成事業①】

主に県北地域の子どもたちを対象に、活動を通して将来の佐世保を担う健全な人材育成を図ることを目的に活動しているジュニアオーケストラ。多様な市民がホールを通じて文化芸術にふれていただくことを目的に、初心者の入団も受け入れ、楽器の貸出も行っている。指導は、長崎県唯一のプロオーケストラ「長崎 OMURA 室内合奏団」の団員を中心に行っており、アウトリーチ活動や地域の行事にも参加するなど、地域に根ざした活動も積極的に行っている。卒団生も、全国各地でジュニアオーケストラでの経験を活かし活躍しており、将来の佐世保を担う健全な人材育成に寄与している事業であるとする。

【普及啓発事業⑥】

米軍基地を有し、多国籍の市民が在住している地域性を活かし、初めてハロウィンをテーマとし、親子を対象とした音楽とアート、パントマイムの要素も交えたオリジナル企画。地元の物産協会の協力を得て、来場した子どもたちにお菓子のプレゼントを行うと共に、表方スタッフも仮装し、お客さまをお迎えした。仮装して来場する親子も多く、公共ホールでハロウィンを楽しみ、公共ホールを身近な存在として感じてもらう機会に繋げる事ができた。また、関連企画として、ハロウィン飾りを親子で制作し会館を装飾するワークショップや指定管理施設である美術館と連携し、未就学児向けの美術展を開催。地域の文化拠点として、将来を担う未就学児が小さな頃から文化芸術に親しみ、会館に親しみを感じてもらえるような取り組みを様々なかたちで行うことができたとする。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

国内外で活躍する一流の演奏家による公演をはじめ、感染症対策で開催を控えていた市民参加型事業にも、様々な工夫を凝らしながら積極的に取り組み、地域の文化芸術の発展に努めた。また、様々な事業で長崎県出身の演奏家を起用することで、地域の実演芸術の発展に繋がったと考える。財団独自で開催するのではなく、教育機関や地元の関係団体などと協力すると共に、指定管理施設である美術館と連携事業を行うなど、街全体の文化芸術の振興を目指し取り組んでいる。

特筆すべき主な事業は以下の通りである。

公演事業②

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、若年層が楽しむ野外イベントの中止が相次ぐ中、若年層を中心に地域活性化を目指し実施。佐世保市出身で佐世保観光名誉大使でもある、日本人初の個人での世界大会準優勝を成し遂げたブレイクダンサーTAISUKE やレゲエなど若年層のダンス人口が多い佐世保ならではの企画に挑戦した。一般社団法人佐世保青年会議所の協力も得て更なる賑わい創出のため、屋外広場等を活用し、佐世保の飲食店によるマルシェや地元ダンサーによるダンスパフォーマンスも行い、これまでにない広がりを目指した。Instagram や TikTok にてイベントアカウントを作成し、800 人近くがフォロー、3 万人近くが閲覧。入場目標には届かなかったが、助成をいただくことにより、新しい広報手段や新たなジャンルに挑戦し、地域振興にも寄与することができた。地域の若年層経済団体との協力体制も築くことができたので、今後の事業にも活かしていきたい。

公演事業⑤

市民演奏家が日頃の練習の成果を発表する機会として、平成 16 年からホールを市民へ開放し開催している市民参加型の音楽祭。感染症対策を講じ 2 年間開催することが困難であったが、コロナ禍で減少している市民演奏家の発表の場を設けるため、発表するホールを絞るなど、様々な感染症対策を講じ、参加者の協力も得て 3 年ぶりに開催。また、地元物産協会等の協力も得て、広場でマルシェも行い賑わい創出に努めた。音楽祭での発表を目標に日頃の練習を行っている団体も多く、市民演奏家の練習活動の励みや生きがいに繋がり、地域の文化拠点としての役割を果たすことができたと考える。

普及啓発事業⑧・人材育成事業②

平成 28 年からの継続事業である小学 4 年生を対象に小学校の音楽室へ地元演奏家を派遣する「音楽アウトリーチ事業 演奏家がやってくる！」では、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、離島を含む 20 クラスの小学校に演奏家を派遣。演奏家を受け入れる学校側も安心して実施できるよう、感染症対策に関する要望も取り入れながら、教育機関と連携し、感染症の影響で鑑賞や参加機会が失われていた子どもたちへ身近に文化芸術に触れる機会を提供した。また、令和 5 年より派遣を行う第 3 期演奏家のオーディション、研修も並行して行い、子どもたちにより魅力が伝わるプログラム創りを行うことができたと共に、研修を通して地元演奏家のスキルアップにも繋げることができ、地元演奏家の演奏活動の中でも研修の成果が活かされている。

20 クラス定員の中、57 クラスから申込があり、学校の恒例事業として教育機関からも高い評価を受ける人気の高い事業として定着している。今後も、学校教育機関と連携することにより、文化芸術を通じた将来を担う心豊かな次世代の育成に取り組んでいきたい。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【運営について】

当財団は、佐世保市と長崎県県北地域の文化振興及び地域活性化、多様で豊かな魅力ある街づくりを推進することを目的に平成 11 年に設立された市の外郭団体である。佐世保市からの管理運営受託者を経て、平成 18 年度からは指定管理者として管理運営を行い、現在に至るまでの約 22 年に亘る中で蓄積されたノウハウやネットワークをもとにアルカス SASEBO の継続した管理運営に努めている。令和 3 年度からは、アルカス SASEBO の他、国の登録有形文化財であり日本遺産にも認定されている「佐世保市民文化ホール」（旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館）と、県北唯一の美術館「佐世保市博物館島瀬美術センター」の指定管理者となり、三館の管理運営と文化事業を行っている。三館の情報を掲載した情報紙を発行するとともに、佐世保市民文化ホールを活用した新たな事業の立ち上げ、美術館との連携事業を実施するなど、県北地域における「文化創造活動の拠点」および「地域活性化の拠点」としての機能を最大限に発揮できるよう努めている。

【財務面】

財源確保の取り組みとしては、平成 16 年度よりオフィシャルスポンサー制度を導入。総額の内一部を公演への協賛金としていただいている。また、ジュニアオーケストラの活動についても、佐世保市からの補助金のほか、法人・個人のスポンサー制度を設けており、いただいた資金は楽器購入や運営資金として活用している。その他、文化庁のほか、（一財）地域創造の「公共ホール音楽活性化事業」や（公財）三井住友海上文化財団の「地域住民のためのコンサート」の助成事業も活用しながら、職員の企画・制作能力のスキルアップと共に、多様な支援を活用しながら事業運営に取り組んでいる。

オフィシャルスポンサー：1 社 ジュニアオーケストラ法人スポンサー：14 社 ジュニアオーケストラ個人スポンサー：18 名（令和 5 年 3 月末現在）

なお、アルカス SASEBO の友の会組織である「アルカスクラブ」も開館より継続して運営しており、優待公演を実施するなど、魅力ある運営に努めている。

【ネットワークの構築】

九州類似ホール連絡会に在籍し、情報収集や他館との連携を図りながら事業推進を行っている。その他、ジュニアオーケストラを運営しているホールとの意見交換や情報共有も定期的に行い、令和 5 年度からは九州内のジュニアオーケストラが一同に介し、合同で演奏を行う交流事業を実施するよう計画している。また、佐世保市の観光課や文化財課、まち整備課、佐世保市コンベンション協会と情報交換を行う定例会にも毎月参加しており、佐世保市の地域活性化や魅力ある街づくりに更に寄与出来るよう情報収集や連携に努めている。

【人材面】

内部研修を行うと共に、全国公立文化施設協会主催の外部研修会等にも積極的に参加し、人材育成や継続した組織強化に向け取り組んでいる。＜内部研修：財団全職員を対象とした広報研修会／講師：林健次郎、ホールボランティアスタッフを対象とした劇場フロントスタッフ接客研修／講師：星乃もと子＞また、開館準備段階よりホールボランティア制度も運営しており、長年の活動が地域の音楽家の文化活動を支える貴重な存在としても認められて、地域活性化へと繋がりをみせている。登録者数：51 名（令和 5 年 3 月末現在）